

# 教学半也



ご意見はコチラから

令和8年2月5日

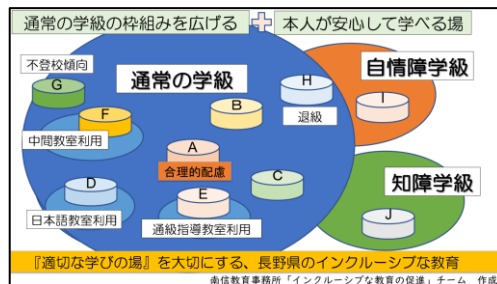
No.20

全読者対象

## <インクルーシブな教育の促進> 「みんなの幸せ」を目指して ～諏訪市立中洲小学校の取組から～

皆さんは、「インクルーシブ」と聞くと、どんなことをイメージしますか？

長野県では、「インクルーシブ教育」ではなく、「インクルーシブな教育」を促進しています。校内には、特別支援学級や日本語教室、通級指導教室など、様々な学びの場があります。「インクルーシブな教育」は、それら全てを融合して混ぜてしまうのではなく、それぞれの教室の仕組みや役割をいかし、通常の学級の枠組みを広げることで、全ての子どもたちが安心して自分の力を発揮できるような「適切な学び」と「適切な場」の実現を目指しています。この号では、「インクルーシブな教育の促進」を窓口に、学校改革に取り組んだ諏訪市立中洲小学校の取組について紹介します。



### 「インクルーシブな教育」のイメージ図

## 自校の先生方の強みをいかし、広げていく

中洲小学校のユニバーサルデザイン（以下、UD）部会の主任を務める、特別支援教育コーディネーターのA先生は、「子供も教師もみんなが幸せな学校」を目指し、研究を進めていく中で、次のように考えていました。



A先生

UDを進めていくことは大切だけれど、先生方の負担にならないようにしたい。「これをやってください！」ではなく、先生方の今ある素敵な授業づくり、学校づくりの延長線上にある研究にしていきたい。

A先生は、校内の先生方が、様々な場面でUDに関わる取組を行っていることを日々感じていました。そんな先生方のよさや取組を整理できるように、他県のUDの取組やリーフレット等を参考に、中洲小独自のUDチェックリスト「**中洲小 自分（教師）もみんな（児童）も幸せ♥レシピ**」を作成しました。そして、学校訪問での指導主事や部会内での話し合いを重ね、以下のような活用を考えました。

- ①毎月、「中洲小幸せ♥レシピ」の中で、重点とするメニューを1つ決め、全職員が集まる重点研究日の10分を使い、そのメニューに関わる、困っている子供の実例や支援について、ミニ研修を行う。
- ②学んだ実例や支援と、自身のクラスの子供を重ね、目の前の子どもたちが学びやすくなるような支援を考える。
- ③実際に支援を行い、自身の取組について振り返り、次の支援につなげる。

次ページで研究の具体を紹介します。

令和7年度 UD 研究部会  
中洲小 自分（教師）もみんな（児童）も幸せ♥レシピ

| 自分（教師）もみんな（児童）も幸せ♥レシピ           |                                                  | 〇△× | 強化月間 |
|---------------------------------|--------------------------------------------------|-----|------|
| <b>A 学習環境の構造化（視覚刺激・聴覚刺激・時間）</b> |                                                  |     |      |
| 1                               | 教室前面・床面・机などがすっきりしている。（整理整頓・掲示物の精選・物の配置の工夫）       |     | 8月   |
| 2                               | 教師が穏やかな表情・声など質問しやすい雰囲気を持って授業を行っている。              |     |      |
| 3                               | 授業の流れが視覚的に示されている。授業の流れが読み取れたりする板書になっている。         |     |      |
| 4                               | 板書の文字の大きさや情報量が適切である。                             |     |      |
| 5                               | 授業の流れがパターン化されている。                                |     | 9月   |
| 6                               | 学習姿勢や学習規律が具体的に指示されている。（視覚的に示される。活動前に確認される。）      |     |      |
| 7                               | 教師が人権感覚を大事にした言葉遣いをしている。                          |     | 1月   |
| 8                               | 授業中に静寂が存在する。（静かに聞く場面の確保）                         |     |      |
| <b>B 視覚化・焦点化・共有化</b>            |                                                  |     |      |
| 1                               | 紙書や絵、写真、具体物等の視覚的支援を活用して情報伝達を行っている。               |     | 11月  |
| 2                               | 目で見て確認できる板書や教材・メモ等がある。                           |     |      |
| 3                               | 注目したくなる、考えたいような工夫がある。                            |     |      |
| 4                               | 「めあて」が焦点化され、児童が目指しやすくなっている。                      |     |      |
| 5                               | 指示の量を調節している。（連続した指示は2つまで⇒活動⇒2つの指示⇒活動…など）         |     |      |
| 6                               | 児童同士がかわりあい、学びあい、教え合う場が設定されている。                   |     | 12月  |
| <b>C 児童の個性に寄り添った対応</b>          |                                                  |     |      |
| 1                               | メリハリのある授業になっている。（「静」と「動」を組み合わせる、体の感覚を使う活動がある、など） |     |      |
| 2                               | 具体物操作を取り入れるなど、多感覚を使う工夫がされている。                    |     |      |
| 3                               | 生活に密着した教材やICT活用など、イメージの持ちにくい児童への工夫がある。           |     |      |
| 4                               | 次の課題を用意するなど、理解の早い児童へ見通しを持たせる工夫がある。               |     |      |
| 5                               | 具体物に子どもに伝わりやすい方法で示している。（〇を入れる、シールを貼る、グラフにする）     |     | 10月  |
| 6                               | 評価が目で見えるように児童に示している。（〇を入れる、シールを貼る、グラフにする）        |     | 2月   |
| 7                               | 行動の直後や机間指導等で個別に賞賛や支援を行っている。                      |     |      |

チェックリスト 参考資料：長野県教育委員会「（県立）ユニバーサルデザイン」、岩手大学教育学部「普通学級における教科指導「みんな」でこの子の可能性を伸ばそう」リーフレット、宮城県教育委員会「「わかる」「できる」「やる」」学校全体で取り組む授業の土台作り「アップ」

中洲小幸せ♥レシピでいんなる意をまぎれさせて自分もみんなも幸せにしたい中洲小にしよう！

中洲小 自分もみんなも幸せ♥レシピ

①毎月、「中洲小幸せ♥レシピ」の中で、重点とするメニューを1つ決め、全職員が集まる重点研究日の10分を使い、そのメニューに関わる、困っている子供の実例や支援について、ミニ研修を行う。

【今月の重点】レシピ (C-6) 評価が目で見えてわかるように児童に示している。

### 子供の視点から学び合う



子供の幸せ（目指す姿）の具体の姿の例が提示されています。

なぜ「評価の視覚化」が必要なのか、困っている子供の実例が書かれています。

### 研修当日、先生方に配付された資料1

### 教師の視点（環境や支援）から学び合う



「評価の視覚化」について、既に行われている、校内の先生方の素敵な取組が紹介されています。

具体的な支援に生かせそうな情報が提供されています。

### 研修当日、先生方に配付された資料2

②学んだ実例や支援と、自身のクラスの子供を重ね、目の前の子供たちが学びやすくなるような支援を考える。

### 困っている子供が活躍できそうな場面

B先生 (B)

- ・ (九九など) 頑張って練習した場面
- C先生 (C)
- ・ 音楽会の練習に取り組む場面

### できそうな支援

実際の先生方の記述より

- B: 特に子供を褒めるときに、具体的に伝えることを意識する。
- C: 練習に取り組めたらシールを貼り、1週間ごと、クラス全員で共有する。

③実際に支援を行い、自身の取組を振り返り、次の支援につなげる。

### 工夫された教室環境



284個のいい所が詰まった「ビー玉貯金」の掲示

子供たちと考えた「ニコニコさん」の掲示



「ほめポイント」の掲示

### 振り返り

実際の先生方の記述より

- B: ビー玉貯金の時など、ほめポイントを「〇〇の□□な所が良かった」のように、具体的に子供たちに伝えることができた。
- C: 頑張りが可視化されたことで「自分も頑張ろう」、「〇〇さん、すごい」と感じながら練習に励んでいた。提出物など他の場面にも、どんどん取り入れたい。

日々の支援や翌月の支援へ

【翌月の重点】レシピ (B-1) 板書や絵、写真、具体物等の視覚支援を活用して情報伝達を行っている。

UD部会だけでなく、他の研究部会の授業でも、評価の明確化や分かりやすく視覚化されたワークシートなどの支援が自然と行われています。先生方の中に、子供の困難さや背景に目を向け、目の前の子供たちを具体的にイメージしながら支援を考えていくことが、少しずつ根付いてきていると感じています。

目標は、「インクルーシブ」という名称で何か特別なことをするのではなく、今やっていることが、中洲小学校の当たり前の文化として根付くことです。自然に、無理なく、児童も先生方も「幸せ」に過ごせる学校を目指し、引き続き、校長先生のリーダーシップのもと、学校全体で取り組んでいきたいと思っています。



A先生

中洲小学校の先生方は、チェックリストを見ながら、ただ単に「正面の黒板の周りには何も掲示しない」等、形だけの環境の整備ではなく「自分のクラスの子供たちにとって、必要な支援は何なのか」という視点で考えています。支援の枠組みを広げる取組を行い、学級が子供にとって「適切な学びの場」になるように、日々、実践を積み重ねています。「みんなの幸せ」を意識した先生方の支援の積み重ねは、確実に中洲小学校の文化として位置付け始めています。自校の強みをつなげ、広げていった中洲小学校の取組に学びたいと思います。